

六月二十六日・二十七日開催された一泊ウォークに於いて、恒例の俳句を希望者の皆さんから頂きました。厳正な審査の結果、金賞五名・銀賞五名の方の作品を掲載いたします。

日光杉並木と戦場ヶ原一泊ウォーク

【金賞】

来し方の時の厚みか杉落ち葉	増田春恵
つゆ晴れ間昔を歩く杉並木	長田 燿
梅雨晴れの木洩れ日ゆらく杉並木	渡邊勝利
天を突く杉の木立や夏の行	増田敏幸
湿原や蓮華つつじと旅人と	武田理恵



【銀賞】

ウグイスの声さえわたり小路行く	塩川雪江
梅雨晴間いにしえ思ふ杉並木	木ノ内由美子
マタタビの白さきわだつ夏の山	松井隆子
梅雨晴れや男体山は男前	西島真砂子
夏の夜の一句に悩む旅寝かな	稲葉百合子

日光杉並木と戦場ヶ原一泊ウォーク

第一日目

佐野 和彦

鳩鳥をらぬ 駅南夏夜明
 銘板をつけし杉あり青葉間
 水無月や往古をしのぶ杉並木
 そこここに倒木あまた夏鶯
 釣人の腰まで水に夏の湖



第二日目

夏の夜の盛り上がりたる炭鋸節
 夏朝の先頭切ってバイキング
 離れ猿川を跳びけり滝の上
 人生に悩みし学徒滝の虹
 赤き布つけし地蔵や梅雨じめり



私の富士山！

(その1)

稲葉 英樹

生まれて70数年この富士宮市に生きている私は朝、昼、晩と富士山と一緒に育ったとも言える。



私は旅が好きで、特に異国が大好きである。既に海外数十か国へ旅している。富士宮に戻って来て、富士山を眺めた時、やっと帰って来たんだと感じる。たとえば、芝川から戻ってきて、安居山の信号を超え富士山と富士宮の町を目にした時、と同じ感覚である。そんな富士山が世界自然遺産として浮かびあがって来た。

話はまったく飛んでしまうが、ある時こんな事があった。

インドの旅行者が良く晴れて富士山がくっきりと見える6月のある日、私に、「富士山てどの山ですか？」と聞いてきた。私は、富士山を指差して「あれがそうです。」と教えた。

そしたら、彼、いわく「違う！」と言った。「え！」私はびっくり……私はその理由を聞いた。「だって、上に雪をかぶっていないじゃん」夏のこの時期に富士山に雪が無いのが当たり前と思っている私には、とても不思議に思えました。

バス座席確保について

行事時におけるバスの座席については次の通りです。

- ①役員席（総括・点呼係）は前方左側2人分です。
これ以外の席は早く来た人から自由に座って下さい。
(役員も同一条件です)
- ②一人の方が確保できる空席は一つのみです。
ルールを守って楽しいウォークにしましょう。

8月の事務所休業日

3日(水)	10日(水)	17日(水)
20日(土)	21日(日)	24日(水)
27日(土)	28日(日)	31日(水)

編集後記

この号が皆さんのお手元に届くのは7月24日の「車山・八島ヶ原湿原ウォーク」で、その2日前の22日は二十四節気の「大暑」でした。動物園の白くまたちへの氷のプレゼントなどのイベントは、この大暑の日に合わせていることが多いようです。

